

平成 31 年 1 月 30 日

丘珠空港利活用検討関係者会議（第 2 回）

自由意見； 空港とまちづくり

BY 田村亨

1. 先進国の空港づくりの歴史

戦後～1990 年 需要追隨の施設づくり（同じ規格の施設を数多く造る）

1991 年～2018 年 グローバリゼーションと空港民営化（ナンバーワンを目指した競争）

2019 年～2030 年 AI 革命（ビッグデータや AI、自動運転など要素技術を使って、よりよき社会の実現に向けて行動する） 例え、フィンランドの Maas（サービスとしての移動）バス、電車、レンタカー、タクシー、レンタサイクル、飛行機などあらゆる交通手段がニーズに合わせてパッケージ化され、定額で提供される、というサービス

まとめ； 国の一元管理の時代 ⇒ 市場に任せる時代（企業経営）

⇒ 官、民間、市民、地域金融などの多様な主体による地域経営の時代

2. 具体的な事例

地域経営の事例

ヨドバシ梅田（2020 年完成予定、阪急、JR、バスタを核とする複合商業施設）

枚方 T-Site（蔦屋書店） 本屋の遊園地（2016.5）

宮崎空港 宮崎市の商業機能の一部を空港に移転（ひとりの空港関係者）

和歌山空港 南紀白浜温泉＋バスを中心とした公共交通網再編＋空港（みちのり HG）

海外にはユニークな事例が多数ある

・バンドリングによる国を超えた空港連携と地域開発（観光、産業立地）

AI 活用の事例

CIQ 手続きの簡素化（チャンギ、セントレア、・・・）

Maas による 2 次交通の充実（フィンランド {準備中}、・・・）

3. 丘珠への期待

「新千歳空港との機能分担」、「共用空港」、「道内コンセッション」

利用者・地域住民が求める地域色が分からない＋変革の時代に付いて行けていない

↓

- ① 「東アジアとの境がなくなる時代の空港ブランド」構築へ向けて、利用者が考える北海道らしさ（札幌らしさ）を明確にし、らしさを空港に表現する（デザインする）
- ② 誰がまとめるか； 合意形成が難しい時代に、地域社会をまとめようとするのではなく、社会の先導者（人々の行動を変容できる人）に託す